



# ながの

2025.1.1

No. 142



公益社団法人  
長野県看護協会

特集  
P8-9

## つなぐ看護

- 新年のご挨拶 ——— P2-3
- 支部だより ——— P4-5
- 四職能委員会報告 — P6-7
- 輝くプラチナナース — P10
- 理事会報告 ——— P11



長野県  
かんご  
ちゃん  
(わさび)



(広報出版委員会 撮影)

# 新年のご挨拶

公益社団法人長野県看護協会 会長 松本 清美



会員の皆様 明けましておめでとうございます。

昨年は、元旦に能登半島地震が発生し、災害支援ナースをはじめ多くの看護職の皆様に活躍いただきましてありがとうございました。災害対応、感染症への対応、患者対応、健康増進など住民の方の身近な存在として日々尽力いただいていることに、深く敬意を表すとともに改めて感謝の気持ちでいっぱいです。今後のさらなる活躍を心より期待しています。

2025年は、「長野県看護協会将来ビジョン」を評価し、皆様のお声をお聞きしながら今年の総会において、2040年を目指しての新たなビジョン「長野県看護協会将来ビジョン 2.0」を公表し、看護職はもちろんですが住民の皆様とも共有する予定であります。看護職の役割がますます重要と認識いただく年であると予想されます。医療技術の進歩、地域医療の充実、少子高齢多死社会の進展など、多くの課題が私たちを待ち受けています。

これからの時代において、看護職のスキルや知識を高めることはもちろんですが、住民一人ひとりの気持ちに寄り添い、ともに歩んでいけるような温かい看護を提供していくことが求められます。

2025年が皆様にとって穏やかで幸せな一年になりますことを祈念いたします。

一般社団法人長野県医師会 会長 若林 透



明けましておめでとうございます。

長野県看護協会並びに会員の皆様方には、日頃から県民の健康保持・増進と福祉の向上のため看護事業に取り組み、「健康長寿日本一」を目指す長野県の重要な一翼を担っていただいていることに心から敬意を表する次第です。

看護職の皆様方には、医療の最前線で様々なリスクに向き合いながら懸命に対応いただいていることに心から感謝を申し上げます。

地域医療の中核を担う県内の医療機関は、県民の期待に応えるべく、医療の提供に努めておりますが、一層厳しさを増しております。また、県民が健康で文化的な生活を維持するためには、質の高い医療・介護を安心して受けることができる医療提供体制の整備や、健康管理・予防医療に係る環境づくりが求められております。

看護職におきましては医療の高度化、人口の少子高齢化に伴う対応の複雑化などにより、そのニーズはますます高まっており、看護職の養成・確保は喫緊の課題です。国や県では、復職支援や勤務環境の改善を施策の柱とし、様々な取組みが行われています。長野県医師会としても施策推進に大いに期待しているところです。

一人ひとりが健康で、生涯にわたり生き生きと暮らせることは県民の願いであり、われわれ医療従事者も同じ思いであります。「健康で長生き」を目指し、医療・介護・福祉の現場でともに頑張りましょう。

結びに、長野県看護協会のますますのご発展と、会員の皆様方のご活躍を心からご祈念申し上げ新年のあいさつと致します。

## 年頭ごあいさつ

一般社団法人長野県歯科医師会 会長 伊藤 正明



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

能登半島地震災害に際し、本会は歯科医療従事者からなる「長野県JDAT」を被災地避難所へ派遣しました。実際に現地に足を運ぶことで避難所での口腔ケアの重要性をはじめ、災害時の歯科医療・歯科保健体制構築の重要性を改めて実感する活動となりました。貴会においても多くの会員が現地に赴き、ご尽力されましたことに改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、長野県の歯科界では、本会会員の平均年齢は62歳を超え、一層会員の高齢化が進展することが予測されます。これにより診療所の廃止等により地域歯科医療・保健活動への影響が懸念されます。特に中山間地域などで実際に散見されるようになってきています。このような現状は本会だけでは解決できない課題であり、医療界で課題を共有して解決する必要があります。今後はより一層貴会との連携を深め、様々な課題に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに皆様方の益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ～地域を支え、地域に生きる～ 一般社団法人長野県薬剤師会 会長 藤森 和良



新年明けましておめでとうございます。

長野県看護協会の皆様には、本会事業に格段のご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、日頃の献身的なご尽力に深甚なる敬意を表します。

ご存知のとおり少子超高齢社会にあって、本年は地域包括ケアシステムが稼働し、2035年、2040年問題といわれる社会保障制度の抜本的改革や医療・介護サービスの生産性の向上等が議論される中、医療界を取巻く環境は目まぐるしく変化することが予想されます。

貴協会は、「健康長寿世界一の信州を目指して～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」を掲げ、看護師職能の推進に向けて資質の向上、地域看護の推進に努め、地域住民の保健・医療・福祉をつなぐ看護を強化されています。

私達薬剤師も、薬物療養に責任を持って業務に努め、医療現場における看護師皆様と更なる連携を図り、適正な医薬品の提供や服薬指導等を通じ、安心・安全を確保し、地域医療、保健衛生の向上にその役割を果たしてまいりたいと存じますので、よろしく願いいたします。

長野県看護協会の益々の発展と会員皆様にとって素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

## 多職種で連携して 公益社団法人長野県栄養士会 会長 馬島 園子



謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年中は長野県栄養士会の活動にご支援、ご協力を賜り深く御礼申し上げます。

昨年は元日早々に能登半島地震が発生し、その後も相次ぐ豪雨による水害の発生など、災害支援体制構築の重要性を感じた年でした。石川県の支援では看護協会の支援チームや多職種の支援がありましたが、感じたのは支援を充実させるためにはスムーズな多職種連携が大切ではないかということでした。

また、2025年稼働の地域包括ケアシステムにむけたトリプル改定もあり、病院・施設や地域でも施設間連携・他職種連携を求められているところです。

栄養士会は各職域や支部で「食と栄養」面から県民の健康づくりに寄与出来るように活動しておりますが、看護協会の皆様とも協力して災害時や地域などでの様々な活動ができますことを願っております。

結びに看護協会の皆様方のご健勝と益々のご活躍を祈念致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

# 支部 だより

特徴を踏まえ住み慣れた地域で暮らし続けられるように頑張っている各支部の活動を紹介します。

## 大町支部

### 支部長 大西 めぐみ

大町支部では、6月29日に支部集会を開催し、新旧役員を引き継ぎを行い、その後「笑い文字講座」を安曇野赤十字病院、宮田みゆき先生にご講演いただきました。笑い文字は、黒と朱色の2本の筆ペンで作る笑顔の筆文字のことです。大切な人を思い浮かべながら、感謝の思いを伝え、自分も満たされる。自分自身と対話しながら、内面にある気持ちに気づき癒される講座でした。

10月には、「人を知り、ストレスから自由へ」と題し、佐久大学看護学部・大学院看護学研究科教授、朴相俊先生による市民公開講座を開催しました。相手との違い（性差）を理解する。男性と女性の価値観は本質的に異なる。などストレスとの向き合い方をご教示いただきました。



## 長野支部

### 支部長 臼井 豊子

本年度は、認知症と災害をテーマに、3つの研修を開催しました。認知症では「家族支援」と「地域における多職種連携ケア」について、地域の医師に講演を頂きました。いずれも体験を踏まえた内容となり、講演後は質問だけでなく悩みを相談する場面もみられました。災害研修は京都看護大学教授の小原真理子先生をお迎えし、「災害図上訓練（DIG）」を実施しました。研修は本年で4年目となり、昨年に引き続き参加された方もいらっしゃいました。身近な地域の災害を想定しながら活発な意見交換がなされ、減災の考え方について学びました。「まちの保健室」は須坂健康まつりの会場で実施し、多くの来場者と交流する機会となりました。今後も、皆さんに参加頂ける活動を企画していきたいと思っております。



## 北信 支部

支部長 下田 智恵美

6月の支部研修ではバンブーキャンドル作りを行いました。地域の高校生のサポートを受けながら夢中になって取り組み、個性あるキャンドルができ上がり達成感と共にリフレッシュすることができました。7月には高校の学校祭において「まちの保健室」を開催しました。進路相談や、技術体験に積極的に参加していただき、看護の仕事への興味、関心につながられたのではと思います。また、9月には他職種研修として「自分らしく生きるために～アピランスケア～」をテーマに北信総合病院がん相談専門員の片塩幸先生による研修会が開催されました。実際にウィッグや矯正下着に触れ、講師や研修生同士で情報交換をしながら和やかな研修会となりました。他支部からの参加者もあり、関心の高さと同時に対面での研修の良さをあらためて実感しました。



## 松本 支部

支部長 西沢 博子

7月に市民公開講座「これからは健康長寿フレイルを知ろう～フレイルの予防と対策～」、9月に看護師対象「看護職と健康的に働くことができる身体作り」を行いました。地域の方達から積極的な質問があり、関心の高い研修になったと思います。また看護師として自身の健康を守るために必要な学びを得ることができました。8月には参加者63名で、3支部合同新人研修を行いました。「病院を越えた交流ができリフレッシュできた」との感想もあり、満足度が高い内容であったと思います。

「まちの保健室」は7月に松本工業高校文化祭、10月に南松本ふれあい祭りで活動しました。いずれも200人弱の方が健康測定にお越しくださり、幅広く地域住民の皆様との交流ができました。今後も役員と協力し、支部活動を行っていききたいと思います。



## 木曾 支部

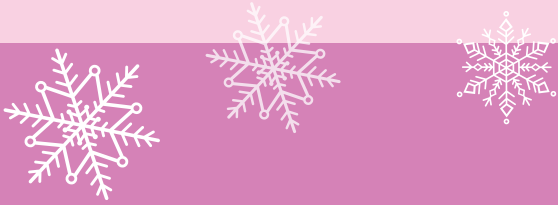
支部長 草刈 由美子

7月の市民公開講座は、飯田病院整形外科部長中村幸男先生から骨粗鬆症について講義いただき、実際に体を動かしながら骨と筋肉を同時に鍛える方法を学びました。骨を強くするビタミンKが多い食品「ひきわり納豆」が紹介されると、町のスーパーから売り切れるほどの反響でした。

11月には木曾広域連合と共催で支部研修を開催しました。昨年に引き続き佐久総合病院 小林和之先生よりアドバンス・ケア・プランニング (ACP) について講演いただき、人生会議って普段のなんてことない「雑談」から始まるかもしれないということ学びました。

「まちの保健室」は信州木曾看護専門学校の学校祭で血管年齢測定と体脂肪測定を、木曾病院祭では看護師体験を行ないました。今後も支部役員の皆さんと協力し頑張っていきたいと思います。





# 四 職 能 委

## 保健師職能委員会

委員長 岩下 由美

今年度も6月の職能集会から始まり、県や県内教育機関と連携して体系的研修を企画・運営しています。6月の集会では、「保健師活動の変わらないもの、変わるもの」と題し、松本会長にご講演いただき、健康課題は増えても保健師活動の基本は常に変わらぬことを確認し合いました。後半にはキャリア年数毎にグループに分かれ、活発な意見交換と交流ができました。

体系的研修は、A1～B3までのラダーレベルに応じた組立てをしており、日頃の業務の振り返りや保健師活動の本質に立ち戻る良い機会となっています。しかし、その学びをいかに現場に反映できるかが新たな課題ともなっています。研修に出す側、参加した側両方で学びを共有しつつ活かしていただくよう期待しています。

また今までの活動の成果として、令和7年度には県から市町村への派遣が実現する予定です。業務多忙の中、マンパワーの確保は大きな戦力となります。働く世代の重症化予防や子ども達の健全な育ちを支えるため、看護職連携、多職種連携で「つながる看護」を実現していきましょう。



保健師職能集会



新人保健師研修

## 助産師職能委員会

委員長 山名 寿子

分娩施設集約化のなかで病棟の混合化が進み、全国調査から産科以外の患者対応による産婦ケアの中断経験が61.3%と医療安全上の課題としてあがっています。また、助産師のうち助産業務以外の業務に従事する者が22.3%と助産師活動のあり方は転換期を迎えています。助産師職能委員会としては、社会のニーズや組織の方針に対応しながら、助産師のやりがいと専門性が発揮できるための支援となる活動をしています。

助産師の教育体制を整えることが難しい施設が多数のため、新人から管理者までの助産実践能力習熟段階に応じた研修の企画、運営を行っています。今年度は産科管理者研修に多くの看護部長に参加していただき、共に考える機会となりました。これからもお力を借りながら活動をすすめたいと思います。プレコンセプションケアや女性に対する暴力予防の支援など、社会のニーズに対応した研修も年々増やしています。産後のメンタルヘルス研修は、保健師や地域の開業助産師と合同で連携を深める機会となり、継続したことで成果が得られました。県内の助産師からの要望、研修受講者の声をききながら、面積が広い長野県の助産師が参加しやすい、興味ある研修を企画していきます。



長野県、長野県助産師会との共催研修 7月6日

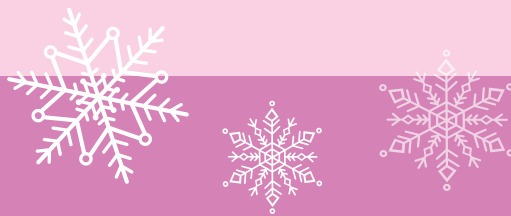


「助産師の働き方今までとこれから」9月8日  
日看協 井本寛子常任理事をお招きして



助産師支援研修「災害時対応」9月12日

# 員会報告



## 看護師職能委員会 I

委員長 堀内 清美

看護師職能 I・II 合同で、「つなぐ看護」の実践を目指して研修を開催して3年目となりました。今年度は「看取りを支える看護職連携の実際」をテーマに講演会とシンポジウムを行いました。社会福祉法人万亀会副施設長の三木昌代先生より「今こそ伝えたい平穏死」と題し、ご講演をいただき、4名のシンポジストからの事例紹介の後にディスカッションを行いました。患者さん、ご家族の意向を確認し、その方の望む療養、そして最期が迎えらるるよう、寄り添い支援していくことが必要であり、自分事として「死」について考える機会となりました。



講演会

看護協会支部役員との合同会議では、病院領域の看護職が抱えている課題

(夜勤負担軽減、人材確保対策、多様な働き方) について情報交換を行いました。共通の課題も多く、好事例についても共有することができました。今後も現場の声を吸い上げ、ニーズに合わせた活動および研修を企画していきます。



シンポジウム

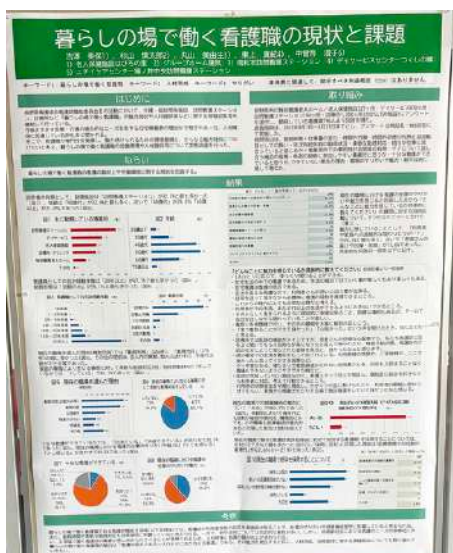
## 看護師職能委員会 II

委員長 吉澤 美保

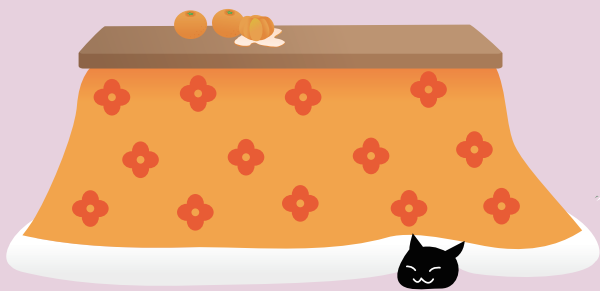
今年度も「つなぐ看護」を目指し、看護師職能 I との合同会議や職能集会、研修会を開催しました。看護職の役割は何か、どう連携が必要かなど活発な意見交換ができ、有意義な時間となりました。

今年度の長野県看護研究学会では、2023 年度に実施した実態調査の結果を「暮らしの場で働く看護職の現状と課題」と題してポスター発表する事が出来ました。看護の原点である一人一人に向き合える II 領域の魅力が、仕事のやりがいや就業継続意思に影響している一方、人材育成・労務管理などの課題もあり、今後課題解決に向けて取り組んでいきたいと思えます。

また、9月号看護ながのとともに発行した職能 II だよりは「その人らしい生き方を支える」をテーマに、介護医療院・グループホーム・看護小規模多機能型居宅介護事業所の取り組みを紹介でき、II 領域の看護を知ってもらおう良い機会となりました。



## 知っ得！ かんご 魅力発信編



今号は魅力発信編です。働き続けられる魅力ある職場にするために、各施設の働き方改革や働きやすい職場への取り組み、人材確保、職場体験などの工夫についてお聞きしました。

● J A 長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院  
副看護部長

岡村 晴美

当院では、看護師という職業の理解を深める機会として、また看護を目指すきっかけや、進路決定の一助となればという思いで、高校生の看護師体験を企画・実施しています。

コロナ禍は一旦中止しましたが、今年度は、高校生の夏休みに合わせ2日(両日 20名参加)開催しました。

車いす・ストレッチャー体験や、バイタルサイン測定、救急蘇生法の体験なども取り入れています。実際病棟で看護体験をしていただく事にこだわり、看護師と共に、患者さんの援助やお話をさせていただいています。

高校生からは、「実際に現場で看護師や患者さんと接し、仕事の大変さや重要さを学ぶ事ができて、やりがいがあり素敵な仕事だと思った」「看護師を目指す思いが強くなった」という感想が聞かれ、少しでも魅力を伝えることが出来たことに嬉しさを感じています。

机上では経験できない貴重な体験の場として、今後も新たな事を取り入れながら企画していきたいと思っています。



● 小諸市役所 健康づくり課  
保健予防係 主任保健師

葛城 晴佳

助産師として臨床を経験した後、子育て中に多くの専門職の方に助けていただきました。そこで自分自身の知識・経験不足を痛感すると共に、病院での一定期間の関わりに留まらない、地域で長期的な親子の支援を行う市町村保健師の仕事に興味を持ちました。

ちょうど第2子の発達面や関わり方等に悩んでいた時期も重なり、その際関わってくださった保健師さんに憧れ、自分も困っている親子に寄り添った支援をしたいと思ったのが今の仕事に就くきっかけです。

私は母子保健業務を担当していますが、精神保健や成人の健診等、幅広い業務を行うため戸惑う事も多くあります。保健師の経験もまだまだですが、皆で助け合う体制があることや頼りになる先輩たちに相談しやすいこと、自分で業務を調整し時間単位で休めることから働きやすい職場だと感じています。職場内で保健師キャリアラダーを活用し目標を共有し合えることや、様々な研修に参加しやすくブラッシュアップを図れることも大きな魅力です。





働き方改革が必須な昨今ですが、当院では2023年度から「LINE WORKS（企業向けクラウド型ビジネスチャットツール）」を導入しています。今回は、LINE WORKSの活用による現場での働き方の変化について少しお伝えできればと思います。

まずは、電話連絡の回数が減ったことです。電話により業務が中断されたり、電話をつなぐために待ち時間が生じたりとデメリットが改善され効率化につながっています。また、電子カルテの伝言板機能で行っていた連絡方法も、カルテを開く手間が無くなり迅速に対応できるようになりました。さらに、関係職種が閲覧できる開かれた環境にすることで、やり取りに対する躊躇や、電話を掛けるタイミングをはかるなどの負担感が軽減し、心理的安全性の確保にもつながっています。現在は、病棟間や職種間のやり取り、緊急入院時の受け入れなどの調整にも拡大し、病床決定や多職種連携がスムーズになり、なくてはならないツールとなっています。



飯田下伊那圏域では看護力再開発研修会は、圏域内8病院の共同開催として長年行われています。ご承知のとおりどの医療機関でも看護人材不足は深刻で、特に養成校の少ない当地域ですので圏域を挙げて潜在看護師の発掘に取り組む必要性を皆が感じており共同開催となりました。この研修会は看護職員の再就職を促す研修会である事はもちろんですが、当圏域ではもう一つの役割として介護施設に従事する看護職員の技術演習の場として期待されている事も特徴です。今回も介護施設に従事されている方の参加があり、技術演習、特にBLS・褥瘡対策のポジショニングについては参加者から高い評価がありました。参加者の意見からは「輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方も経験したい」と今後の研修会への期待も寄せられました。今回12名の方に参加いただき、「子育てが落ち着いたらもう一度臨床にもどらうと思う」「技術演習で自信ができました」と喜ばしい意見をいただき終える事ができました。



総合周産期母子医療センターとしての人材活用への展望について、助産師育成の視点から紹介いたします。

昨年度、総合周産期母子医療センター（以下、センター）である当病棟は、小児科との混合病棟となりました。世相に反映するとは、まさにこのことであると実感しています。

今後も社会のニーズの多様化により、周産期医療も大きく変化していくことが予測されます。そして私たち自身も、次世代に向けた看護提供や働き方に対し、策を講じていく時期が来ているのではと考えています。当センターの看護理念を【私たちは、切れ目のない周産期看護の提供を目指します】とし、2025年より「限られた人材の活用により、互いに補完し合い質の高い看護が提供できる」「胎児期から妊娠・分娩・産褥・



育児期といった周産期看護における一連に関わることで、看護スタッフのキャリア形成に繋がる」ことを目指した取り組みを推進していくことにしました。助産師の視点で捉えた場合、分娩介助という独占業務だけでなく働き方も問われる時代になっています。当センター助産師の強みは、当院での出産を必要とする妊産褥婦が、出産後母親として成長していく過程を知り、また、生まれた赤ちゃんの治療を含めた成長過程における伴奏者として支援できることではないでしょうか。取り組みの推進と平行に、助産師育成の仕組み作りも進めていきたいと考えています。

# 輝くプラチナナース

ご自身のキャリアを活かし、  
熟練したスキルと豊富な生活体験を持つ、  
プラチナナースを紹介します。

諏訪赤十字病院 森林 美恵

## ① 看護キャリアを含めた自己紹介

臨床看護を約19年、看護管理を19年その内の12年は看護部で業務を担当していました。家族・同僚の協力があり育兒や介護、看取り等を経験し62歳の定年を迎えました。退職後は働く環境を変える予定でしたが、再雇用後の3年は緩和ケアセンターの開設、運営と通院治療センターで臨床看護を実践しました。久しぶりの臨床でスタッフや患者さんとの関わりがとても新鮮でした。また、がん診療・がん看護を学ぶ良い機会になりました。その後は、働く中で大切にしてきた「寄り添う」「想いに耳を傾ける」「関心を寄せる」が実践できる入院時重症患者メディエーター業務を担うことになりました。

## ② 現在の仕事内容や役割について

医療メディエーターと称して専任で担当して2年と8ヶ月になります。総合医療相談室も月に数回担当しています。週4日のパート勤務です。入院時重症患者メディエーター業務は、重症患者とその家族が抱える不安や疑問に寄り添い、意思決定を支援すると言われています。ICU、救急病棟へ入院した患者さんの家族と面談をします。病態や治療方針、病状経過等を家族の言葉で伝えて頂きながら理解されているのかな？疑問なことはないのかな？辛いことや不安などを把握します。時に補足もします。記録は患者家族の言葉で残し、その情報は病棟スタッフと共有します。情報を共有する事を大切にしています。特に重症患者さんに対する気持ちの辛さや不安、倫理観等を伝えることで互いの思いを語り合う機会にしています。他職種カンファレンスやデスカンファレンスにも参加しています。積み重ねてきた知識や経験が若い世代にどのように伝わっているかはわかりませんが一緒にケアをしている実感があります。また、若い世代と話ができる楽しさもあります。

## ③ 健康の秘訣

歳相応？以上？の認知・身体機能の低下はあります。そして持病もあります。現状を維持したいと気づけている事は食事内容と運動です。歩くことは気分転換になっています。また、年に数回ですが交響楽団のコンサートに行きます。生演奏と会場の雰囲気は非日常でリフレッシュしています。そして友人と登山（低山）をする目標もあり、元気な友人に刺激を受けています。

## ④ 仕事を続けられる理由

病院内で久しぶりに会う人にいつまで働くのか？と聞かれる事があります。私が働き続ける理由には、社会とつながっている事が大切だと思っているからです。人とのつながりの中で喜びや生きがいを見つけたいと思っています。そして、プラチナナースで働いている仲間が大勢いる事が励みになっています。自分が出来ることを自分の使命と捉え、培われた知識と経験を活かし必要とされている場所で楽しく仕事をしたいと思えます。



**\* 2025年度  
公益社団法人  
長野県看護協会  
定時総会について**

下記のとおり、定時総会を開催いたします。  
記

日 程 2025年6月21日 (土)  
場 所 長野県看護協会会館 松本市旭2-11-34  
スケジュール  
定時総会：9時00分～12時30分  
合同集会「長野県看護協会 将来ビジョン2.0について」  
：13時30分～14時30分  
職能集会（保健師、助産師、看護師Ⅱ）：14時40分～15時40分予定  
詳細については、2025年4月に送付する開催通知にてお知らせいたします。

**2024年度  
理事会報告**

**第7回理事会（12月6日）**

〈協議事項〉

1. 令和7年度 日本看護協会名誉会員及び日本看護協会長表彰候補者の推薦について
2. 会員入会促進強化月間活動について

〈報告事項〉

1. 日本看護協会理事会報告
2. 2024年度 予算執行状況および決算見込みについて
3. 2024年度上期 協会立訪問看護ステーション収支報告
4. しらかば居宅介護支援事業所の休止について
5. 2024年度上期 ナースセンター事業報告
6. 第43回長野県看護研究学会報告
7. ビジョン2.0策定進捗状況報告

**NuPSの開始時期の変更について**

看護職のためのポータルサイトNuPS（ナップス）の各種機能はシステム改修が必要となり、**2025年秋以降**に提供予定となりました。詳細につきましては日本看護協会ホームページをご覧ください。開始時期が確定しましたら改めてお知らせします。

**就職ガイダンス  
「信州で看護。」  
2025**

長野県で看護職として働きたい方（看護学生・看護職）の就職ガイダンス

日時：2025年3月18日（火）  
12:00～16:30

会場：ホテルブエナビスタ  
内容：学生向け国家試験対策  
セミナー  
就職ガイダンス



- 長野県内の約60病院等が参加します。
- 参加により嬉しい特典があります！  
・事前予約・スタンプラリーでQUOカードがもらえる  
・おいしいスイーツ&ジュースをプレゼント
- 申し込み方法などの詳細は専用サイト、二次元コードから！

信州で看護。 検索



**新年の挨拶**

今年度は、県内の医療・福祉関連施設の取り組みを「知って得する」機会になればと思い、「つなぐ看護」～知っ得！かんご～をテーマにお届けしました。沢山の方々に快く記事や情報を提供していただき感謝申し上げます。「看護ながの」を通して次の未来に続くための看護職全員の励みの一旦になれば嬉しく思います。

最後に2年間の委員会活動で出会った方々にご協力いただき、学びや経験を深め楽しい活動につながりました。一人でも多くの会員の方に読んでもらえる広報誌作りをめざしてきました。一緒に活動をしてくれた



委員の皆さん本当にありがとうございました。また活動に協力して頂いた看護協会関係者の方々に感謝申し上げます。

広報出版委員長 熊谷

# \* 賛助会員 第4・5号決定!

「中日本メディカルリンク株式会社」様と「公益財団法人長野県長寿社会開発センター」様の賛助会員が理事会で承認されました。誠にありがとうございます。

賛助会員  
募集中

賛助会員は、特典として本会の機関紙や印刷物を無償で受け取ることができ、「看護ながの」に広告を年1回無料で掲載、名称が協会会館に掲示及びホームページに掲載されます。引き続きご支援いただける賛助会員を募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。お待ちしております。

明日へ、一緒に。  
Together, towards tomorrow.

中日本メディカルリンク株式会社

長野県介護福祉士会  
長野県のケアワーカーと介護の未来も作る

睡眠と、空気と、水と、

TUK 東洋羽毛

令和7年度  
学生募集  
3/31まで先着順

県内在住の50歳以上のみさま  
出会いと交流 仲間づくりで  
シニアが元気に!

県下10学部 定員690人  
1日4時間/年間15日程度

(公財)長野県長寿社会開発センター  
026-226-3741

Quality of Life  
毎日の生活に「彩り」を

複合福祉施設セントラル・ビオス

株式会社ウェルライフ信州  
https://www.central-bios.jp

NISA  
もう始めていますか?

オンライン相談も受け付けています!

もう始めている人も、これからの人も、八十二銀行に相談してみませんか?

八十二銀行

学ぶ目的はさまざま

4月入学生募集  
3月11日(火)まで

看護師国家試験の受験資格の取得  
大卒資格  
知識を深めたい  
仕事・家事育児の合間に学びたい  
豊かに暮らしたい  
全部OK!  
ネットでも出願可能  
学士(看護学)の取得  
ネットやTVで学習したい  
あなたの『学びたい』を応援します!

放送大学 諏訪市諏訪1-6-1  
長野学習センター ☎0266-58-2332

[放送大学(1983年設置)]は文科省・総務省共管の通信制大学です

デザインコンシャスな感性に響く、スマートクロスオーバー。

MAZDA CX-3  
15S Vivid Monotone

特別仕様車

甲信マツダ  
https://www.koushin-mazda.co.jp